

群馬県立渋川青翠高等学校学校評価一覧表②（令和4年度版）

（様式2）

羅 針 盤		達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題		
評価対象	評 価 項 目	具 体 的 数 値 項 目		①				②	総合
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動（授業等）を行っていますか。	① 総合学科高校として特色あるキャリア教育活動に満足している生徒が80%以上である。	A	A	A	・系列・科目ガイダンスを充実させるとともに二者面談・三者面談により、多くの生徒が納得した選択を行うことができた。キャンパス見学・インターンシップや外部講師による進路講話も実施でき、自身の進路について考える機会をもつことができた。	・新型コロナの感染拡大で、キャンパス見学やインターンシップに影響が出ているのではないかな。以前と同じにはできないかもしれないが、工夫して、総合学科として特色ある教育活動を行ってほしい。	・系列の特色をより明確化できるよう科目ガイダンスを充実させ、二者面談・三者面談等を通して生徒・保護者に多くの情報を提供する。今後は感染症対策を講じながらコロナ禍前と同様の取り組みをしていく。キャンパス見学・インターンシップや外部講師による進路講話など外部との連携をより高めていく。	
		② 学校の諸活動に意欲的に取り組んでいると感じている生徒が75%以上である。	A	A	A	・新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら、可能な限り部活動や学校行事を実施するという方向性を貫き、多くの行事を開催できた。	・今年度は感染症対策を実施しながら、様々な行事を行って大変良かった。今後も生徒の活躍の場を作ってほしい。	・学校公開のような行事で、係業務や発表など生徒の活躍の場を設定し、学校の活動に生徒が積極的にに関わり、達成感が得られるような取り組みを実施する。	
	2 生徒の主体的な学びを引き出す「総合的な探究の時間」（総合研究）を行っていますか。	③ 一連の学習活動（課題設定、調査・研究、まとめ、発表等）を主体的な学びであると自己評価している生徒が80%以上である。	A	A	A	・「産業社会と人間」「総合学習セミナー」「総合研究」において、多くの生徒が主体的で意欲的に取り組み、自分自身についてまたは自身の興味のあるテーマを深く考え、まとめることができた。	・学習成果発表会では、スライドを用いて分かりやすい発表ができていた。このような指導を継続してほしい。質疑応答が活発になるとさらによい。	・「産業社会と人間」「総合学習セミナー」「総合研究」への移行をしっかりと行えるようガイダンスの充実を図り、生徒の主体的な学習への支援を行う。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	④ 学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が85%以上である。	B	C	C	・ICTの活用等を通し、授業の改善を図った。 ・オンライン授業の体制整備が遅れ、学級閉鎖等の際、十分な指導が行えなかった。	・オンライン授業は、シミュレーション等を行い、スムーズに実施できるようにしてほしい。大学等ではオンライン授業が進んでいる。大学の先生を講師に招く等してもよいかもしれない。	・次年度は年度当初から、Googleクラスルームを活用するなど、学級閉鎖等の際もオンラインで授業ができる体制を整える。	
		⑤ 目標の資格取得を果たした生徒が60%以上である。	A	B	B	・資格取得に積極的に取り組む生徒が多く見られた。 ・様々な教科で基礎・基本を定着させ、資格取得等に取り組ませることで学習への意欲をさらに高めていきたい。	・キャリア教育の一環として資格取得に取り組むのもよいのではないかな。	・進路指導部と連携しキャリア教育とも結びつけながら、計画的に資格取得ができるよう支援する。	
	Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥ 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に1～2回程度行っている。	A	A	A	・各会議で情報交換、情報共有を行うと共に、教育相談係やスクールカウンセラーと連携して、支援が必要な生徒に対応した。	・今後も生徒とのコミュニケーションを大切にしながら、情報共有と組織的な対応に努めてほしい。	・次年度も、迅速で組織的な対応ができるような情報共有を図りたい。生徒情報が担任、学年だけに留まることなく、管理職に必ず伝達し、全職員で共有していきたい。
		⑦ 部活動等への加入率が70%以上である。	B	B	B	・新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、限られた時間で工夫をして活動をしている。きめ細かな指導で、部活動の途中退部者を減らしたい。	・コロナの影響は続くが、生徒の活躍の場を確保してほしい。	・来年度は、今まで以上に部活動の魅力を生徒に伝え、部活動を通して、生徒の自己肯定感を高められるように、学校全体で部活加入率の向上に努めたい。	
5 生徒は規則正しい学校生活を送っていますか。		⑧ 基本的生活習慣を身に付け、服装髪型など身だしなみがしっかりしている生徒が90%以上である。 ⑨ 家庭と連携を図ることで、生徒の遅刻者数は、1日平均1%以内である。 ⑩ いじめの未然防止や早期発見に努めて、いじめの解消率が90%以上である。	B A A	C C A	B B A	・本校の指導を理解している生徒が増え、ほとんどの生徒がしっかりした身だしなみをしている。今後も継続的に、毅然とした態度で指導していきたい。 ・欠席、遅刻は基本的生活習慣ができていない生徒や、不登校傾向のある生徒の場合が多いので、家庭との連携を強化して対応している。 ・教職員への研修を重ねたことで、いじめ問題に対して組織的な対応をする意識が向上している。未然防止、早期発見、早期対応に努めたい。	・学習成果発表会では全校がとても落ち着いた、よい雰囲気であった。評価がCの部分は原因を検証し、改善してほしい。 ・引き続き、家庭との連携をより密にして、改善につなげてほしい。 ・学校での取り組みが、保護者に十分に伝わっていない部分がある。Web等を活用し、保護者への情報発信を確実にしてはどうか。	・一昨年度から継続して頭髮指導に重点を置いて指導し、大幅に改善が見られている。来年度も引き続き、指導を緩めることなく、教職員全体で取り組んでいきたい。 ・欠席、遅刻、早退が続いてからでは解決できなくなってしまうこともあるので、日常的に生徒の様子を観察して、生徒に対する指導・支援に努めていきたい。外部機関との連携も強化する。 ・来年度も定期的にいじめに関する職員研修を行い、いじめ問題は法律に基づいて組織的に対応する意識を、職員全体に根付かせたい。	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6 計画的な指導を行っていますか。	⑪ 「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる活動を実施し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。 ⑫ 生徒の将来の志望について理解している保護者が80%以上である。	A A	B A	B A	・進路実現に向け積極的に考えている生徒・保護者・職員ともに80%を下回った。「産業社会と人間」「自己探究セミナー」「総合研究」を系統立てるための教職員間の情報共有を行い、キャリア教育のさらなる推進を図りたい。 ・「進路だより」の定期的な発行を行う。紙面配布だけでなくWebページへの掲載を行い、進路情報により家庭での話し合いが持てるきっかけづくりをする。	・総合研究での発表に向けて、系統的な指導ができていると思う。 ・オンラインでもよいので、卒業生と話せる機会があると生徒が進路を具体的にイメージしやすいと思う。 ・様々な機会を通して情報発信し、保護者との連携を進め、生徒の進路指導に生かしてほしい。	・「キャリア・パスポート」による自身の記録とともに、3年生の「進路ノート」や1・2年生の「進路の手引」を併用することで、生徒が進路について考える時間を充実させる。 ・生徒の進路志望について、生徒・保護者・職員が情報を共有し、保護者・教職員間の共通理解をより計るため、「進路だより」をWeb上に公開し情報発信力を高めていく。	
	7 適切な進路情報を提供していますか。	⑬ 「進路だより」を定期的（年間12回）に発行している。	B	C	B	・今後も継続して発行していくためには、複数の教職員で業務にあたり、進路情報を収集し、「進路ノート」「進路の手引」に即した情報や求人情報・進路体験記等を配信したい。	・生徒の進路選択を促すためにも、情報発信は重要である。動画のアップなど、きめ細かな情報発信を進めてほしい。	・生徒の進路状況を把握し、最新の進路情報を収集し生徒に情報還元できる環境を作る。より幅広い発信ができるような体制づくりを再構築していく。	
	Ⅴ 日常的な相談活動が充実していますか。	8 組織的・継続的指導を行っていますか。	⑭ 定例会議を月1回以上開催する。 ⑮ 教育相談通信・スクールカウンセラー通信を月に1回発行する。 ⑯ 転退学者数を前年度より減少させる。	A A C	A A B	A A B	・定例会議は、文書による情報共有も含めると月に1回以上は実施できた。また、個別の情報交換はその都度実施し、情報共有を図った。 ・各月毎に生徒が安心する紙面作りを心がけた。具体的には、生徒が抱える問題について、関連する本を取り上げるなどして、問題と向き合えるような情報提供を心掛けた。また、通信の発行日にはオクレンジャーで周知したりHPにも掲載することで、保護者の方も確認しやすくなった。 ・学校生活アンケートやGライブログの活用により気になる生徒の早期発見に役立てることで、12月末時点で転退学者数は減少となった。昨年度見直しを図った生徒情報カードについては、効果的な情報集約が難しかったため、次年度に向けて見直しを検討したい。	・情報を共有していくことが大変重要である。今後も職員間で密に情報交換してほしい。 ・新型コロナの影響により、サポートが必要な場面が増えている。定期的に発行される通信が生徒だけでなく、保護者にも確実に伝わるよう引き続き努めてほしい。 ・情報を共有していくことが重要である。引き続き保護者との連携を図ってほしい。	・年度当初に最低月1回の定例会議を設けるように日付を決定し、係内の話し合いを持つようにする。 ・外部機関からの精神保健に関する記事や生徒や保護者からの要望・感想などを掲載し、Webの内容の充実を図る。 ・情報共有の方法として、学年会議等を有効活用するようにし、欠席者や心に問題のある生徒に早期に対応し、転退学者の抑制を図る。
Ⅵ 開かれた学校づくりに努めていますか。		9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰ 学校の教育活動を地域及び関係機関の方々に理解してもらうために「学校公開」を年3回実施している。 ⑱ PTA総会、学年保護者会等に積極的に参加している保護者が60%以上である。	A A	A A	A A	・新型コロナウイルス感染症への対策を徹底し、状況によってはICTを活用したオンライン配信を併用することで、予定していた公開行事を実施することができた。 ・PTA総会は書面決裁となっていたが、PTA研修会や生活指導部会・広報部会をPTA役員中心で実施できた。今後も、Webページやオクレンジャーなどを活用し、学校への協力や理解が得られるよう努力したい。	・新型コロナの感染対策は大変だったと思う。感染症対策を講じながら、様々な行事を実施できてよかった。 ・学校行事等はやはり対面での実施が良い。引き続き、保護者の参加できる行事はできるだけ参加を促し、保護者との連携を進めてほしい。	・次年度も感染症対策は必要になると思われるが、学校行事を対面で実施できるよう工夫する。また、Web等での情報発信を行い保護者・地域の方々にも学校の教育活動が伝わるようにする。 ・従来の方法で行事を開催する際、感染症予防を徹底する手段を再検討する。また、本校Webページを活用したPTAの活動の連絡や報告等の周知を図ることで、保護者への参加を促し、家庭との連携を高める。
		10 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑲ 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年3回以上実施している。	A	A	A	・社会人講師を招きオンライン講演会を実施したり、創立記念式典で卒業生による講演会を集合形式で一同に介して実施することができた。今後も臨機応変にオンラインでも対面でも実施できるよう計画したい。	・介護実習等、外部との連携が難しい部分もあると思うが引き続き、保護者・地域と協力して生徒を育ててほしい。	・本校生徒の実態や教育活動に即した外部講師の選定をし、充実した講演会や実習等を企画する。
Ⅶ 教育デジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳ ICTを活用した授業に満足している生徒が75%以上である。	A	A	A	・ICTを利用することが通常となったが、効果的に活用する場面を精選していく。また、オンライン授業の体制整備を行う。	・ICTの活用について、例えば大学等と協力してもよいのではないかな。大学ではオンライン授業が多い。	・Googleクラスルームの活用を推進し、課題の配信、提出やオンライン授業にも対応できるようにする。職員のICTの活用におけるスキルアップを計る。	
	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉑ オンラインによるアンケートを3回以上実施している。	A	A	A	・各種アンケートや学校公開行事の申し込み等Googleフォームを効果的に活用できた。引き続き、ICTを活用し、業務改善を行う。	・引き続きICTを効率的に活用してほしい。	・ICTを用いたアンケートの回収率改善に努める。Googleフォームで回答できない保護者への紙媒体のアンケート配付等を行う。	